

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指して意欲的に学ぶことができる生徒の育成
 令和6年度の全国調査の標準化得点:国語95以上 数学95以上

3.指標に向けての取組

次の3点を中心に学力向上の取組を推進していく。なお、取組の推進にあたっては、義務教育学校の特性を生かし、前期・後期課程で協働して学力向上・保障推進委員会を中心に組織的に行っていく。

①思考・判断・表現を培うための授業改善

・自ら考え、表現できる児童生徒を育成するための、主題研修係と連携した、授業スタンダードの統一・浸透と、全職員による研究授業及び参観の実施
 ・数学・英語の授業における、加配を生かした少人数指導・習熟度別授業の実施

②基礎的な知識・技能の定着のための学力向上策

・思考力を問う問題単元テストの実施とその後の指導の徹底
 ・基礎・基本的な学力の定着を目指したモジュール学習「稲東タイム」の実施
 ・考查前補充・放課後補充(考查1週間前・放課後適宜)

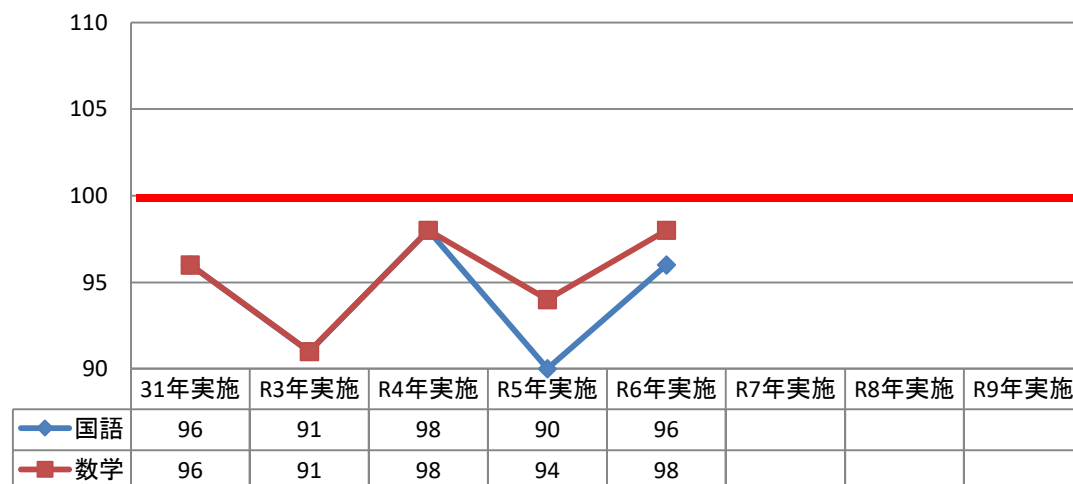
③主体的な学びに向かう態度を身に付けるための家庭学習

・家庭学習時間調査の実施と定期考查前の自学ノートの提出
 ・ノースマホ・ノーゲームデーの定期的な設定

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	96	98
嘉麻市	95	95
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

短期指標においては、国語、数学ともに、目標達成することができた。嘉麻市平均と比較しても国語1ポイント、数学3ポイント上回っているという結果であった。内容については、国語は、知識・技能において、我が国の言語文化に関する事項に成果が見られた。数学はデータの活用領域に成果が見られ、県学力テストに比べ、思考・判断・表現の観点で顕著な成果が見られた。学力四分位層の状況については、国語(A:11.5%、B:25.7%、C:37.0%、D:25.8%)、数学(A:14.4%、B:31.4%、C:34.2%、D:20.1%)であり、D層に対する手立ての成果が表れていたが、依然としてC層を含めて手立てが必要である。質問紙調査からは、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣やスマホ・ゲームの時間に課題が見られた。この結果を受け、①思考・判断・表現を培うための授業改善②C,D層に重点を置いた基礎的な知識・技能の定着のための学力向上策③主体的な学びに向かう態度を身に付けるための個別最適な学習の充実、以上3つが必要であると分析する。

6.各学校における今後の取組

◎本結果の分析及び嘉麻市としての取組を受け、これまでの取組を大切にして、次の3点を中心に学力向上の取組を推進していく。なお、取組の推進にあたっては、義務教育学校の特性を生かし、前期・後期課程で協働して学力向上・保障推進委員会を中心に組織的に行っていく。

◆思考・判断・表現を培うための授業改善

- ・自ら考え、表現できる児童生徒を育成するための、主題研修係と連携した、授業スタンダードの浸透・徹底と、全職員による研究授業及び「授業チェックリスト」を活用した参観の実施
- ・数学・英語の授業における、加配を生かした少人数指導・習熟度別授業の実施

◆C,D層に重点を置いた基礎的な知識・技能の定着のための学力向上策

- ・思考力を問う問題を位置付けた単元テストの実施と通過率にこだわった指導の徹底
- ・C,D層に重点を置いた基礎・基本的な学力の定着を目指したモジュール学習「稲東タイム」や査前補充学習の実施

◆主体的な学びに向かう態度を身に付けるための個別最適な学習の充実

- ・家庭学習時間調査の実施と定期査前の自学ノートの提出
- ・ノースマホ・ノーゲームデーの定期的な設定

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

- ◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、学力検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。